

第 89 回 宗教改革①

1 宗教改革の背景

- ・16世紀、キリスト教世界ではローマ教皇とローマ=カトリック教会（カトリック）への批判から各地で大きな改革運動が起こった。
→これを（ ）という。
- ・なお旧来のカトリックを旧教、宗教改革で登場した新しい宗派を新教と呼ぶ。

<宗教改革の背景>

- (1) （ ）の失敗や（ ）の影響で、中世に比べてローマ教皇を頂点とする教会の権威は揺らいでおり、腐敗や墮落が批判されていた。
- (2) イギリスやフランスでは国王の権力が増加し、各国で教会の影響力は相対的に低下していた。
- (3) （ ）の時期に、教会が使うラテン語に訳された聖書ではなく、ヘブライ語やギリシア語で書かれた聖書の原典研究が進んだ。
→ローマ教皇や教会の教えに、疑問を持つ人たちが登場した。



エラスムス
宗教改革に多大な影響を与えた人物。最初は好意的だったが、次第にルターと対立した。

2 宗教改革前夜

- ・1517年にはじまる宗教改革以前にも、宗教改革の先駆者とされる人物が、各地で教会の批判をこころみていた。

- （ ）…14世紀のイギリス人で、オクスフォード大学の神学教授。
ローマ教会の腐敗を批判し、聖書の英語訳を行った。
- （ ）…ベーメン（ボヘミア）（現在の ）の一部）出身で、イギリスのウィクリフに共感し、教会の改革をこころみた。
→1414年に始まる（ ）で異端とされ、火刑となった。
→これに怒ったベーメンで反乱が起こり、フス戦争となった。
- サヴォナローラ …15世紀末、フィレンツェで改革を行ったが、火刑となった。



ウィクリフ

コンスタンツ公会議で異端とされたが、すでに死んでいたため墓をあげられた。
第65回を復習。



フス



フスの火刑

プラハ大学の学長であったフスは、ウィクリフの説を支持したため、安全を保障されていたにもかかわらず、異端とされ生きたまま焼かれた。



サヴォナローラ

フィレンツェの修士サヴォナローラは、市民の贅沢やメディチ家の独裁を批判して、熱狂的な支持を受けたが、最後は処刑された。

3 宗教改革のはじまり

- 16世紀はじめ、メディチ家出身のローマ教皇（ ）は、ヴァチカンの（ ）を改築する資金を集めようとした。
→ドイツ地域などで、（ ）を売り出した。
※ドイツにあった神聖ローマ帝国が政治的に分裂状態だったため。

- 1517年、ドイツの（ ）大学の神学教授（ ）は、（ ）を公表し、ローマ教会による贖宥状の販売を批判した。
→1520年、『 』を公表し、ローマ教会そのものの批判を始めた。
→ローマ教会はルターを破門するが、ルターとルター支持の諸侯は反発した。
- 1521年、神聖ローマ皇帝（ ）は、（ ）にルターを呼び出すが、話し合いは決裂した。



教皇レオ 10 世

ロレンツォ=デ=メディチの息子である。当時のドイツは分裂状態であり、「ローマの牝牛」と呼ばれていた。



マルティン=ルター 「九十五か条の論題」



ルターは、ヴィッテンベルク教会の扉に、「九十五か条の論題」をはりつけた。ただしラテン語で書いたため、一般市民には何のことかわからなかった。



神聖ローマ皇帝カール5世

ハプスブルク家の出身で、スペイン王も兼任した。オスマン帝国やフランスとの争いに苦慮し、宗教改革には積極的な対応はできなかった。

4 ドイツの宗教的内乱

- ルターは、反皇帝派の諸侯である（ ）にかくまわれた。
→そこでルターは、（ ）を完成させた。
→これにより、庶民も『新約聖書』を直接読むことができるようになった。

- ルターを支持する諸侯は、領内の教会の首長となってローマ教会（カトリック）の権威から離れた（領邦教会制）。
- また『新約聖書』のドイツ語訳やルターのパンフレットなどが広まると、しだいに農民や市民の間にも、ルターの支持者は増えていった（ルター派）。



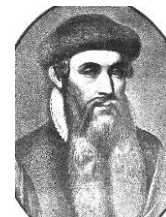
ザクセン選帝侯フリードリヒ

選帝侯とは、神聖ローマ皇帝を選ぶ選挙権を持った大諸侯のことである。第65回を復習。反皇帝派の諸侯もかなり多かった。



ヴァルトブルク城

ルターはこの城にかくまわれ、『新約聖書』のドイツ語訳を行った。難関大学を受ける人は、この城の名前も覚えておこう。



印刷技術が発達していたことは、宗教改革に多大な影響を与えた。そういえば同じドイツ人である。第87回を復習。



ミュンツァー
ミュンツァーは、ルターを「嘘つき博士」と呼んで非難した。最後は捕えられて斬首された。

- 1522年、没落した騎士が反乱を起こしたが、鎮圧された（騎士戦争）。
- 1524年、（ ）に率いられた農民は、十二カ条要求により農奴制の廃止や地代の軽減を目指して大反乱を起こした。
※これを（ ）という。
→ルターは、最初は反乱を支持したが後に批判にまわり、反乱も鎮圧された。